

# Tigers OX Server マニュアル

---

Edition : auto generated by oxgentexi on 23 February 2010

OpenXM.org

---

# 1 TIGERS 関数

この章では, `tigers ox server ox_sm1_tigers` にたいするインタフェース関数を説明する.

## 1.0.1 `tigers.tigers`

`tigers.tigers(a|proc=a)`

:: この関数は識別子  $p$  の `tigers` サーバに行列  $a$  に付随したトーリックイデアルのすべてのグレブナ基底を計算してくれるようにたのむ.

戻り値      リスト

$p$               数

$a$               リスト

- この関数は識別子  $p$  の `tigers` サーバに行列  $a$  に付随したトーリックイデアルのすべてのグレブナ基底を計算してくれるようにたのむ.
- `Tigers` は アフィントーリックイデアルの reduced グレブナ基底をすべて数えあげるための専用のプログラムである. このプログラムは, アフィントーリックイデアルの state polytope をきめるために使える. 理論的なバックグラウンドについては, 本  
B.Sturmfels, Grobner bases and Convex Polytopes  
を見よ. `Tigers` は Birk Hubert が作者である. このプログラムの利用しているアルゴリズムは B.Huber and R.Thomas, Computing Grobner Fans of Toric Ideals  
に説明されている.

```
[395] A=[[1,1,1,1],[0,1,2,3]]$
[306] S=tigers.tigers(A)$
[307] length(S);
8
[308] S[0];
[[[1,0,1,0],[0,2,0,0]],[[1,0,0,1],[0,1,1,0]],[[0,1,0,1],[0,0,2,0]]]
[309] S[1];
[[[1,0,0,1],[0,1,1,0]],[[0,2,0,0],[1,0,1,0]],[[0,1,0,1],[0,0,2,0]]]
```

この例では,  $A$  に付随したアフィントーリックイデアルのすべてのグレブナ基底が  $S$  に格納される. この例では, 8 個のグレブナ基底がある.  $[[i_{-1}, i_{-2}, \dots], [j_{-1}, j_{-2}, \dots]]$  は二つのモノミアルの exponent をならべたものであり, 2 項式をあらわす. たとえば,  $S[0]$  は次の多項式の集合

$x_1 x_3 - x_2^2, x_1 x_4 - x_2 x_3, x_2 x_4 - x_3^2$

であり,  $\langle x_1 x_3, x_1 x_4, x_2 x_4 \rangle$  がその initial ideal である.

# Index

(Index is nonexistent)

(Index is nonexistent)

## Short Contents

1	TIGERS 函数 .....	1
	Index .....	2

## Table of Contents

<b>1</b>	<b>TIGERS 函数 .....</b>	<b>1</b>
1.0.1	tigers.tigers.....	1
<b>Index</b>	<b>.....</b>	<b>2</b>